

第2回須賀小学校地域拠点施設検討委員会会議録

1 開催日時

令和5年1月25日(水) 午後7時00分～午後8時56分

2 開催場所

須賀小学校家庭科室

3 出席者

(委員)

佐々木誠委員長、川野達則副委員長、近藤隆委員、石井大晴委員、中村隆委員、上田悟委員、高野桂子委員、谷義明委員、唐松奈津子委員、星野花恵委員、乙幡弘子委員、諸星香代子委員、穴戸ゆみ委員、小坂周平委員

(欠席)

なし

(事務局：教育推進課)

教育推進課長 大場崇明

(事務局：宮代町立須賀小学校の再整備等地域拠点施設整備プロジェクトチーム)

小川雅也(教育推進課教育総務担当) リーダー、

関根雅治(町民生活課地域振興担当) サブリーダー、

吉田直子(子育て支援課こども保育担当)、加藤正久(町民生活課危機管理担当)、

川崎章人(教育推進課生涯学習・スポーツ振興担当)、

高橋道彰(教育推進課教育総務担当)、島村侑希(企画財政課財政担当)、

須原大輔(教育推進課教育総務担当)、福満正寿(総務課人権・男女共同参画担当)、

山下夏鈴(会計室)

(須賀小学校地域拠点施設基本構想策定支援業務受託業者)

株式会社地域デザインラボさいたま 野沢、小野田

4 次第

1 開会

2 挨拶

3 基本構想策定までのスケジュールについて

4 志木小学校・南池袋公園視察の振り返り

5 須賀小学校地域拠点施設に関する意見交換

6 その他

7 閉会

5 議事（要旨）

(1) 佐々木委員長より挨拶

本日は寒い中、第2回須賀小学校地域拠点施設検討委員会にご出席いただき感謝申し上げます。また須賀小学校にて検討委員会開催となり、より一層身近に感じながら、討論できる場となりました。

本日はワークショップ形式でざっくばらんに思ったことを話せる良い機会ですので、皆様の率直なお意見をいただき、今後の基本構想に反映していきたいと考えております。ぜひご協力をお願いいたします。

(2) 3.基本構想策定までのスケジュールについて（小川より）

今年度は、検討委員会の皆様からご意見をいただきながら、基本構想素案を3月までに作成予定。基本構想に組み込む要素としては、第二期公共施設マネジメント計画の考え方、ワークショップでのご意見、住民意識調査の結果、志木小学校及び南池袋公園やその他今後の視察の結果等を想定。

本日の第2回検討委員会でのご意見、アイデア等を踏まえて、佐々木先生と事務局で基本構想素案を作成し、3月に予定している第3回検討委員会の前に検討委員の皆様にお示しするので、書面でご意見をいただきたい。第3回検討委員会では、いただいたご意見を踏まえた基本構想素案を提示予定。

なお、来年度は基本計画の策定を予定しているので、さらに深い議論をしていきたいと考えている。

(3) 4.志木小学校・南池袋公園視察の振り返り（小川より）

4.志木小学校・南池袋公園視察の振り返りについて事務局より資料：「視察研修の記録」に基づき説明を行ったところ、以下のような意見があった。

佐々木委員長

志木小学校については、小学校と公共施設の複合化の事例を直に見ることができる良い機会となった。池田小学校事件の直後は反対意見もあったようだが、その後、現在まで問題なく運営しているとのことであった。小学校の校長先生と施設館長の方も定期的にミーティングを行うなど綿密に連絡を取り合っており、うまく運営しているという様子も伺い知ることができた。南池袋公園については、元々は鬱蒼とした公園だったが、カフェやテーブルや本棚があるだけで、人々が集まり時を過ごす、良い公園に生まれ変わるということを感じることができた。地域拠点施設の在り方を示唆する良い事例だったと思う。本日のワークショップでも地域の居場所やサードプレイスというテーマが出てくるが、視察に参加されていない方も、写真等でイメージしながら臨んでいただきたい。

(4) . 住民意識調査の速報について (小川より)

住民意識調査の速報について事務局より資料：「須賀小学校地域拠点施設住民意識調査 速報」に基づき説明を行ったところ、以下のような質疑及び意見があった。

【概略】

対象者である、須賀小学校通学区域内にお住まいの小学校5年生以上の男女、1000人を無作為に抽出し、アンケートを配送。内356人から回答があったため、回収率は35.6%となっている。年齢は60歳代が17%、70歳代が40%であり、60歳代以上が半数を占めている。

須賀小学校区域の住みやすさについては、「大変住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」との回答が72.8%となっている。住みやすいと答えた方の理由としては、「環境が良い、自然が豊か」「静か」「駅が近い」等が挙げられた。住みにくい理由としては、「商業施設・商店が少ない、遠い、買い物が不便」という理由が多くを占めていた。須賀小学校区域の魅力、自慢できるところについては、「ちょうど良い田舎感」「のんびりとした雰囲気」「自然の豊かさ」がほぼ同率となっていた。須賀小学校にできる「みんなが集まる地域の施設」はどのようなものがよいかについては、「居心地がよく、自由にくつろぐことができる場所」「様々なイベントが行われ、楽しむことができる場所」「大人も子どもも、世代を超えて交流ができる場所」という回答が多かった。「みんなが集まる居場所」とするためには、どのような施設や設備があれば良いと思うかについては、「趣味の活動や練習ができるスペース」「スポーツ・運動ができるスペース」「カフェのような飲食ができるスペース」「気ままにくつろげるフリースペース」が上位に挙げられた。地域拠点が完成したらそこでどんな活動があったら面白いと思うかについては、「他地域、多世代との交流」「スポーツ活動、運動、散歩」「料理教室、カルチャースクール、ワークショップ、体験教室」の順であった。「みんなが集まる地域拠点」と「須賀小学校」では、お互いにどんな交流や協力をすると良いと思うかについては、「スペースや施設・設備の共有」「地域の人による見守り活動」が挙げられた。地域拠点を創るにあたっての「これぞ」というアイデアについては、「世代を超えた交流拠点」「講習、講座、オープン授業、ワークショップ」「子どもが遊べる場所、子どもが安心していられる場所」というような意見があった。

小坂委員 回答者の属性について、60、70歳代が多いようだが、10～40歳代の若い世代の回収率が低いのはなぜか。学校経由でアンケートを配布すれば、若い世代の意見もより多く吸収できたのではないか。

事務局 対象者は無作為抽出のため、人口構造がそのまま反映されるかたちとなっている。ワークショップの際は、参加者の年齢を均等にするために若い世代に多く送付したが、今回のアンケート調査については作為

的に年齢の平準化を図ろうとすると、結果に齟齬が生じてしまう可能性があるため、人口構造に比例する形で送付した。年代別で意見集計している部分もあるので、若い世代の意見としてはそこで見ていくことになると思う。

上田委員 回収率が35%というのは低すぎると思う。須賀小学校と生涯学習施設を複合化するという計画や、アンケート調査の位置づけがわからなかったため回答しなかった方が多かったのではないか。

唐松委員 意識調査結果の最後に自由意見としてまとめられているグラフについては、回答者が自由に記載した意見を、事務局で分類したという理解でよいか。いずれかのタイミングで、分類前の自由意見についても拝見できることを楽しみにしている。

事務局 ご理解の通り、自由に記載いただいた事項を、今回集計を依頼している地域デザインラボさいたまと事務局で分類を行ったもの。自由意見の記載内容についても今後共有する予定です。

上田委員 先ほどの話と関連するが、本計画について、住民の方にしっかりと内容が理解されるように、進めていただきたい。

佐々木委員長 アンケート調査は終了しているので、内容を読み込み、活用していくことが大切である。事務局の方々には、今後の須賀小学校について、誤解が生まれないように、引き続き情報発信していただきたい。

(5) 須賀小学校地域拠点施設に関する意見交換

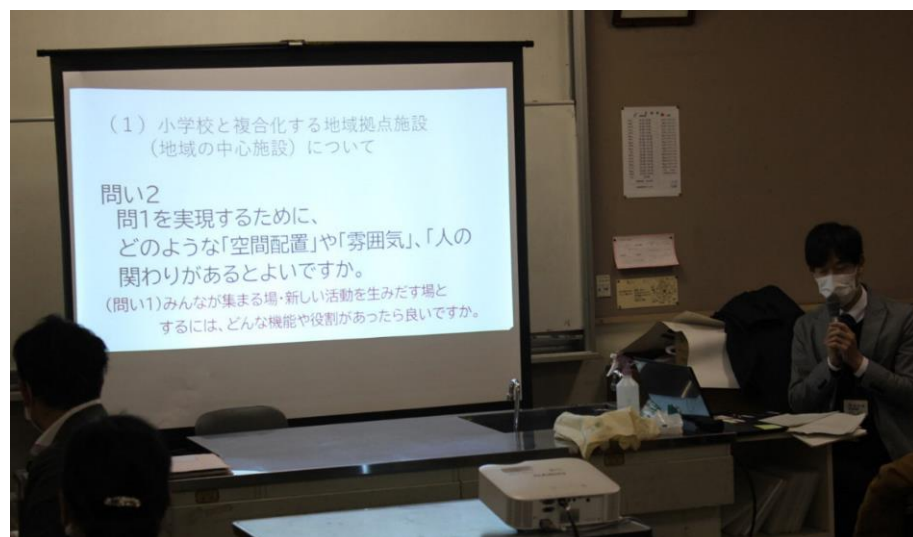
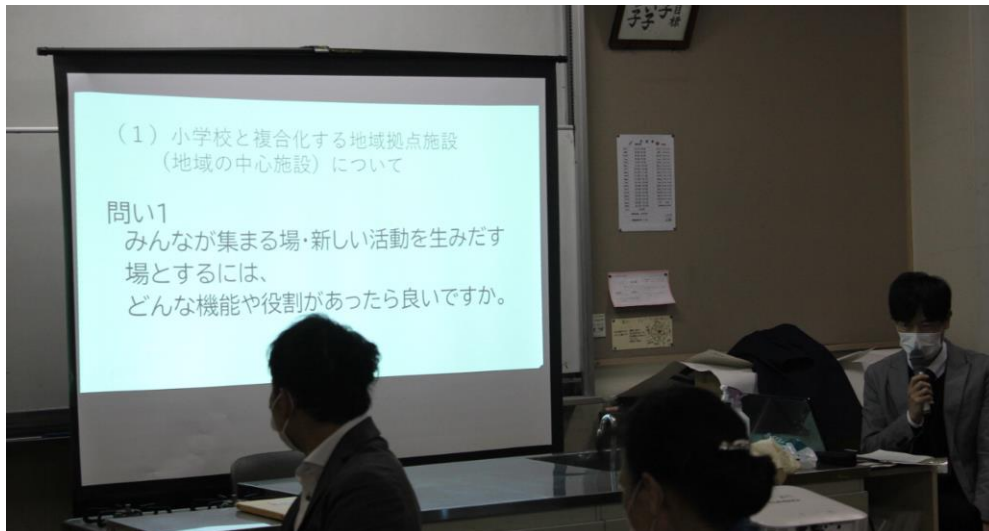
以下 2 つのテーマに関連する 4 つの問いについて、ワークショップを実施の後、発表を行ったところ、以下のような意見があった。

テーマ①須賀小学校と複合化する地域拠点施設について

テーマ②須賀小学校や新たな地域拠点施設と周辺エリアの連携について

問い 1 みんなが集まる場・新しい活動を生み出す場とするには、どんな機能や役割があったら良いですか

問い 2 問 1 を実現するために、どのような「空間配置」や「雰囲気」、「人の関わり」があるとよいですか

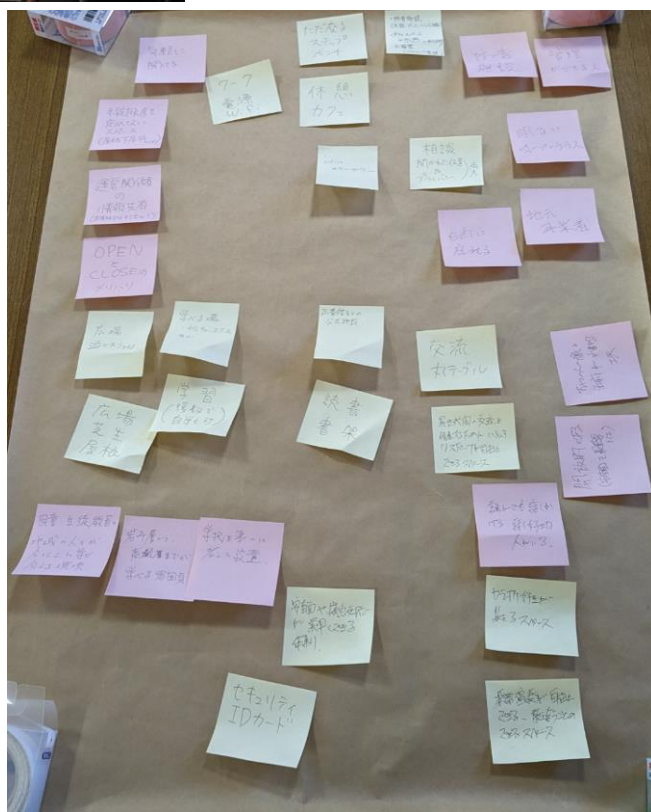


1班：石井委員、上田委員、唐松委員、近藤委員、谷委員

<発表内容記載>

問1について、多かった意見は、学べる場所、学習、広場、休憩カフェ、自習室、カフェスペース、自販機、図書館、交流できるスペース、趣味で使えるカラオケスペース。安全面でのセキュリティ機能が必要という声もあった。

問2については、まちづくりとの連携が必要という意見が多く出た。何かを持っている人が集まるところや、そのような人との関わり。また、町の周辺の情報がわかるような掲示板があると良いという意見もあった。



2班：宍戸委員、小坂委員、高野委員、中村委員、星野委員

<発表内容記載>

問1については、多世代が集まれる場所、無料で使える自由な空間、買い物や飲食ができる有料の空間が共存していると良いという意見があった。新しい活動としては、ちょっとした買い物ができる、ステージで色々できる、習い事やサークルができる、各自が不用品を持ち寄り交換できるような活動の場所があると良いという意見があった。

また、問2にも関連するが、全天候型のオープンスペースを備えたおしゃれなカフェがあると良いという意見があった。さらに、カフェについては、自然や木の温もりを感じることができ、鳥や蛙の鳴き声や音楽を聞くことができ、自由に配置換えができるようにフレキシブルな設計で、安心安全で過ごせるような配慮とコーディネーターがいるような場所にできたら良いという声があった。



3班：乙幡委員、川野副委員長、佐々木委員長、諸星委員

<発表内容記載>

「光のある場所」が大事であるという思いから、明るく寛げる空気感のあるカフェがあると良いという意見が出た。アドバイザーがいたり、ホールが真ん中にあったりすることで、誰かと会える、子どもの声が聞こえる、コミュニティ同士が繋がれるという声もあった。また、須賀小学校・中学校は合唱で有名だったため、発表の場やOBを中心とするコミュニティ形成の場としても、ステージを設置したら良いのではないかというアイデアも出た。

さらに、長期的なコミュニティ形成に資するような農園、ものづくりができるスペース、外部電源を備えたボルダリングやプロジェクションマッピングを投影できる壁がある公園スペースという意見も出た。



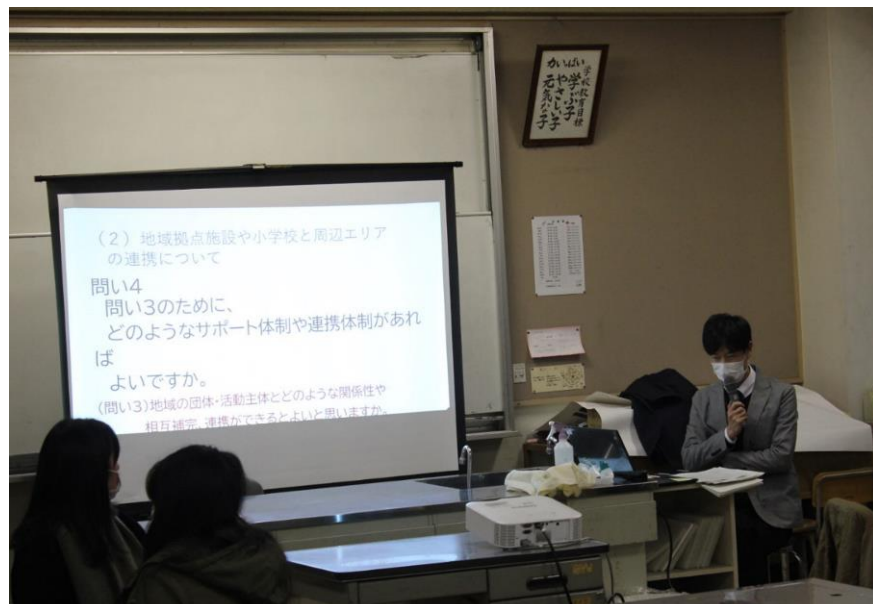
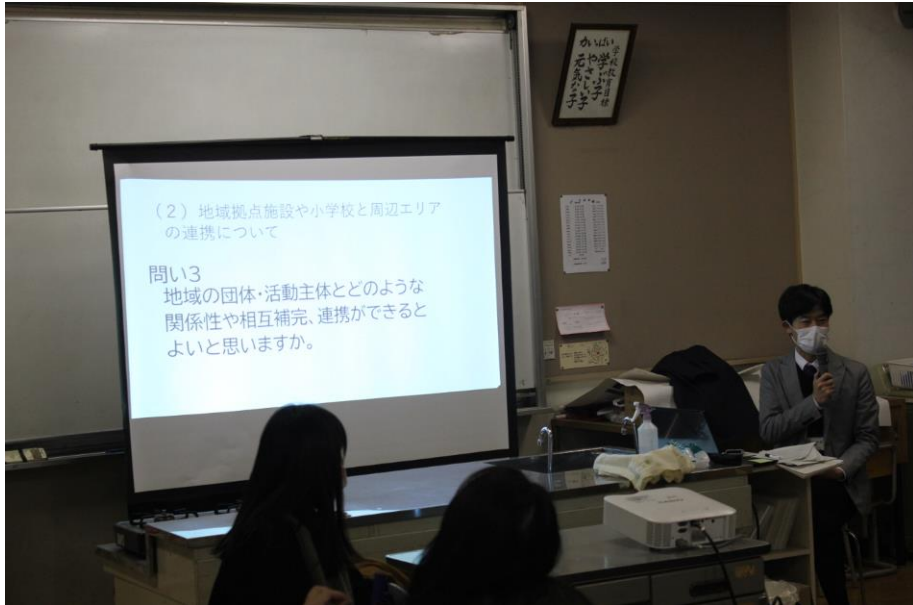
上田委員

場所の活用方法に関する様々なアイデアを実現するためには、教室等のスペースがきちんと確保できるのかというところまでを念頭において考える必要があるのではないか。

メンバーを変更し以下問いのワークショップ実施

問い3 地域の団体・活動主体とどのような関係性や相互補完、連携ができるとよい
と思いますか

問い4 問3のために、どのようなサポート体制や連携体制があればよいですか



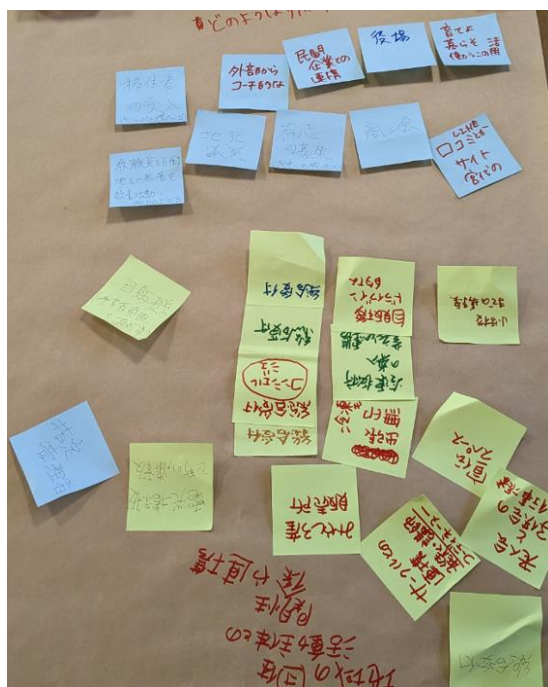
1班：川野副委員長、近藤委員、谷委員、中村委員、星野委員

<発表内容記載>

困り事等のサポートをしてくれるコンシェルジュがいる総合受付があると良いという意見が多かった。さらに、コンシェルジュデスクの上に掲示板を設置して、宣伝広告を掲載できるようにすると良いのではないかというアイデアもあった。

また、地域の方々も出品可能な、冷凍食品の自動販売機を設置したドライブインを設置することで、将来的に宮代町の売りにできるのではないかという意見も出た。

サポート体制に関しては、役場や、商工会、融資関連、移住者受入れ、地元議員、中学校の部活動に外部の講師を入れる、宮代町の人材の情報交換のためのLINEグループの活用といったアイデアが出た。



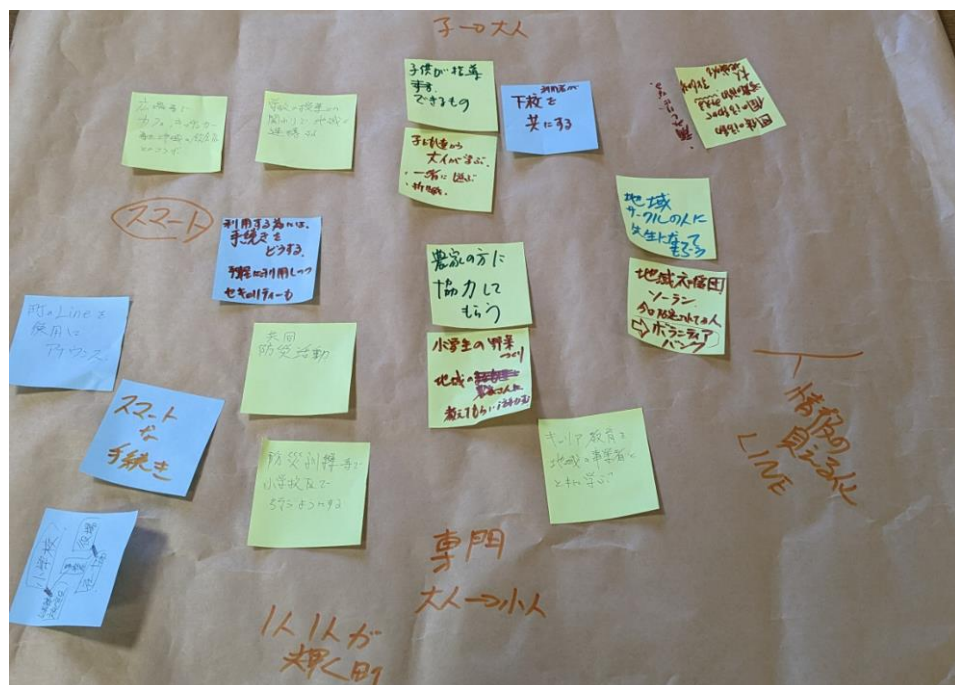
2班：石井委員、上田委員、乙幡委員、小坂委員、諸星委員

<発表内容記載>

一点目は、情報の見える化が重要であるため、例えば、宮代町の公式LINEを活用し、情報提供を行っていくことが重要との意見が出た。

二点目は、大人が子どもに教えるだけでなく、折り紙などを子どもが大人に教えるというような相互補完の取組を計画の中に入れこむことが重要という意見が出た。

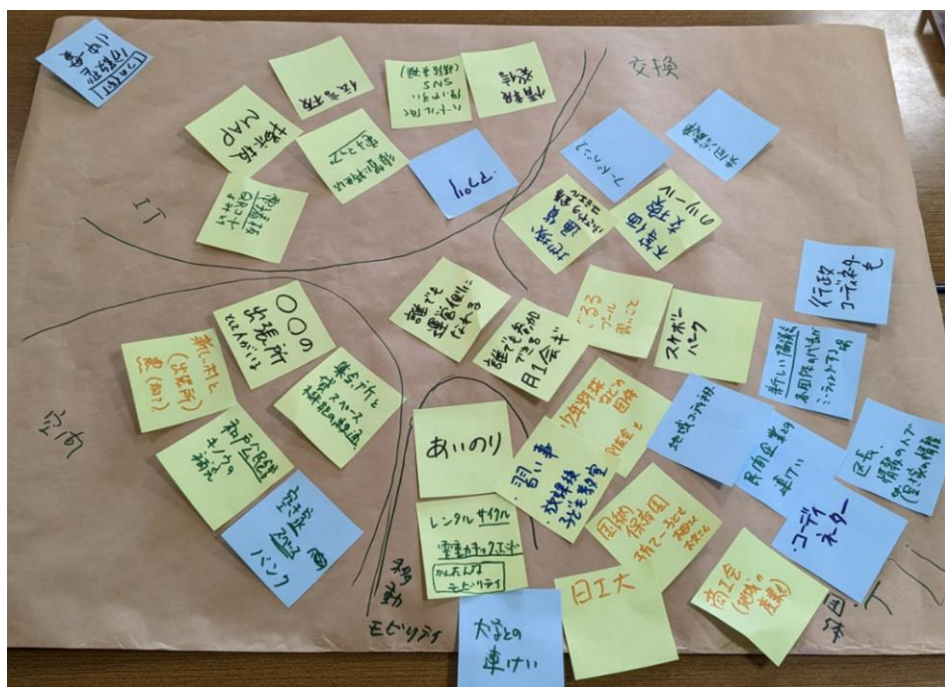
三点目は、紙ベースか電子ベースかに関わらず、手続きをスマートに行うことが需要という意見が出た。



3班：宍戸委員、唐松委員、佐々木委員長、高野委員

<発表内容記載>

以下のような意見でまとまった。一点目は、公民館、集会所、新しい村など空間の融通や人が常駐している出張所の整備。二点目は、地域と連携する上で、宮代町周辺は物理的な距離が離れていることも多いので、レンタサイクル、電動キックボード、相乗りサービスなどのモビリティの充実。三点目は、掲示板、共有できるマップ、SNSなど情報共有手段の充実。四点目は、フードバンクや共同冷蔵庫、物々交換をするようなアプリなどの交換手段の充実。五点目は、大学、企業、商工会をつなぐコーディネーターや地域の区長のような情報ハブの方々が集まって、新しい協議会を作ること、協力体制を作ることが重要。



上田委員 須賀小学校で働かれている先生方の意見も取り入れながら計画を進めて
いていただきたい。

事務局 学校をどのように作っていくかについては、今後、基本計画の中で詳細
に決めていきたいと考えている。先生方、児童、PTAからも声を拾って
いきたいと考えている。

・佐々木委員長の全体まとめ

基本構想は、大きな方向性などの抽象的な部分もあるが、誰しものが同意するよう
なことを書いても仕方がないので、少し尖がった部分も必要だと考えている。本日
の発表の中でも、いくつか特徴的なご意見があったので、それらなるべく盛り込んだ
基本構想にできればと考えている。

構想素案のたたき台ができた時点で、皆様に書面でご意見をいただく機会がある
ので、色々とコメントをいただき、より精度の高い計画を作っていきたい。

(6) . その他

今後のスケジュール予定について、事務局より説明が行われた。

小坂委員 ワークショップ等の意見出しの場では、そのアイデアの素となる素材・
材料が必要となるため、来月の事務局の視察結果を共有いただきたい。
また、宮代町の「一人一人が輝くまちにしていこう」という、まちづく
りのテーマを念頭に置きながら議論を進めることが大切であるという思
いを皆様と共有したい。

以上

【別紙】各テーマで模造紙に書かれた内容

問い1 みんなが集まる場・新しい活動を生み出す場とするには、どんな機能や役割があったら良いですか

問い2 問い1を実現するために、どのような「空間配置」や「雰囲気」、「人の関わり」があるとよいですか

<第1班>

・気軽に聞ける	・セキュリティ ID カード
・特定用途を定めないスペース（屋根下屋外など）	・防音施設（太鼓、ダンス、バンド活動）
・運営関係者の情報共有（定期的な打ち合わせ？）	・カフェスペース 自販機
・OPEN と CLOSE のメリハリ	・自習室
・広場 遊べたりできる	・相談 開かれた位置&プライバシーの両方
・広場 芝生 屋根	・自由に座れる
・児童・生徒・教員と地域の人々が今以上に学び合える環境	・交流 丸テーブル
・学校を第一に考えた設置	・異世代間の交流を推進するためにいろいろなスポーツが自由にできるスペース
・ワーク 電源 Wi-Fi	・誰にでも話しかける話好きな人がいる
・遊べる場 カルチャースクールなど	・カラオケスキが集えるスペース
・学習（複数で自学も可）	・楽器演奏が自由にできる 教え合うことのできるスペース
・若年層から高齢者までが学べる雰囲気	・防音施設
・ただ座る ステップベンチ	・管理ができる人
・休憩 カフェ	・明るいオープンテラス
・スクールカウンセラー	・地元事業者
・図書館などの公共施設	・すべての人の顔と名前がわかる工夫
・読書 書架	・開放的である（安全面を最重要として）
・安全面や救急対応が素早くできる体制	

<第2班>

・防災 子供会 敬老会	・「雰囲気」幅広いコーディネーターの設置
・子供も高齢者もゆっくりできる	・それぞれに専任スタッフ？（施設を使うための調整など）
・児童館（休みの間にも子供たちが遊びに来られる）	・「雰囲気」あたたかさ、母性感？
・（保育所・幼稚園）子育て支援センターのような所	・不用品をあつめて活用 0円レストラン
・近くのお店／川野さん ふさや 八宝堂	・ちょっとした買い物ができる コンビニや売店
・共生	・ステージ（寺子屋、音楽界 etc）
・子供、親、地域の関わり	・不等価交換 おたから市
・地元の農家さん 家庭菜園している人	・カフェスペース
・人との関わり／多世代、サークル、子ども⇔大学生、地域	・おしゃれなカフェスペース兼こども食堂
・公民館 集会所	・習いごとサークル
・テーブルとイスだけの自習室	・小学生も地域の方も何か展示できるギャラリー
・気軽に相談できる窓口	・無料で教われる子どもたち
・とりのさえずり	・図書館機能 展示スペースなど
・音楽がBGM流れてる<雰囲気>	・室内にいるけど自然と近い／全天候型、オープンスペース、木のかんじの
・段差なく広々と楽しめる遊具とかメリハリ<空間>	・平日は教育活動を妨げない配置（音、落ち着きなど）
・安心して過ごせる「安全」	・あたたかみのある 木のかんじ
・交通便 ふみきり 線路	・木と緑
・人工芝のあるスペース	・「空間」木の温もり
・広い芝生や遊べる（子供）開放的な空間	・いろいろ変えられる
・雨でも活用できる明るい空間<空間>	・棚にタイヤついている
・明るさ（夜間の安全性）	・「空間」フレキシブル、可動式
・あたたかさ（色・木）	・おしゃれデザイン性<雰囲気・空間>

<第3班>

・共有教室	・アドバイザーがいる
・電源があると良い 広場	・中央にホールがある

・くつろげる、おしゃべりするベンチ	・ファブラボ
・皆が使えるグラウンド	・フリースペース 集会、トークセッション、ワークショップができる
・公園 アスレチック 水場	・他の機能と動線が重なる（融合）
・イスがあってお茶が飲める場所	・ものづくり 図工、陶芸、ワークショップ
・アスレチック ボルダリング	・音楽室 オーディオ、防音
・お祭りが開催できるスペース	・集いと時なイベントをやってほしい 合唱、ダンス
・イベントができるホール？屋外スペースがほしい	・ガラスバリ 視線がとおる
・コミュニティ同士をつなげてくれる人	・キッチン 食のイベント 子ども食堂 水場
・子供と大人が笑っていられる空間	・カフェ
・みんなで作業できる農園 アドバイザー、道具など 収穫祭	・舞台があったら良い
・子どもたちとふれあえる場	・壁、映画、プロジェクションマッピング
・広場（芝生、樹木少ない）（電源付、水付）	・スクリーン+プロジェクター
・それぞれの活動 人が見える	・図書館
・たえず人がいる雰囲気	・明るい
・誰かと会える ミーティング機能	

問い3 地域の団体・活動主体とどのような関係性や相互補完、連携ができるとよいと思いますか

問い4 問3のために、どのようなサポート体制や連携体制があればよいですか

<第1班>

・移住者の受入	・総合受付
・教職員を目指す地元の若者を教育活動に参加させる	・老人会と子供会の行事一緒
・外部からコーチ的な	・サークルとの連携 発表・講師 コーディネーター
・地元議員	・宣伝スペース
・民間企業との連携	・みやしろ産販売所
・有志の募集（得意を持つもの）	・出張無印冷凍も
・役場	・冷凍技術の導入 業者との連携
・商工会	・自販機ドライブイン的な

・「育てよ暮らそ働こ」の活用	・総合受付
・LINE 口コミとかサイト 宮代の	・コンシェルジュ
・自販機（事業者負担を減らす）	・電光掲示板での町の情報
・指定管理者	・小学校までの動線

<第2班>

・情報の見える化	・農家の方に協力してもらう
・団体の活動	・小学生の野菜づくり
・個の活動がみえる	・地域の農家さんに教えてもらい活動する
・顔見知りになる	・学校の授業との関わりで地域と連携できる
・学校の活動	・手軽に利用しつつセキュリティーも（利用するための手続きはどうするのか）
・地域サークルの人に先生になってもらう	・共同防災活動
・地域応援団（ソーラン節：今は限定されている）	・防災訓練等を小学校区で行うようにする
・ボランティアバンク	・一人一人が輝く町
・利用者が下校を共にする	・広場等でカフェ、キッチンカー等を地域の飲食店とのコラボ
・キャリア教育を地域の事業者と共に学ぶ	・町のLINEを使用してアナウンス
・子どもが指導できるもの	・スマートな手続き
・子どもたちから大人が学ぶ	・小学校⇄公民館施設⇄事務局⇄役場⇄社協の連携
・一緒に遊ぶ（折り紙）	

<第3班>

・〇〇の出張所として人がいる	・商工会（地域の産業）
・集会所と貸スペース機能の融通	・民間企業との連携
・新しい村（出張所）と農（畑）	・新しい協議会（各団体の代表がミーティングする場）
・和戸公民館機能の補完	・行政コーディネーター
・空き家 スペース バンク	・区長、情報のハブ（EX.空き家の情報）
・あいのり	・地域通貨（ふさやの金券ユミエル）
・レンタルサイクル 電動キックボード 簡単なモビリティ	・フードバンク
・大学との連携 日工大	・不等価交換のツール

・誰でも運営側になれる	・共同冷蔵庫
・誰でも参加できる月1会議	・アプリ
・習い事	・須賀に特化した電子マップ
・放課後子ども教室	・電子看板 QRコード読み取り
・少年野球、剣友会などの団体	・情報発信
・ぐるる プール 習いごと	・ハードル低く使いやすいSNS（情報交換）
・スケボーパーク	・伝言版
・国取保育園（子育て）	・掲示板 MAP
・地域コーディネーター	・分散型